

『脱原発・自然エネルギー二〇〇人集』
(日本語・英語合体版)

福島原発事故の悲劇をいかに乗り越え未来を切り拓くことが可能か

[原稿公募 最終締切] 2012年3月31日必着

出版内容：A5版・約600頁前後、日本文・英文の日英合体本
4000部・定価3,150円(予定)
全国の書店で販売、海外書店でも発売を計画中
発行日：2012年8月発行予定

編者：鈴木比佐雄、若松丈太郎、矢口以文、鈴木文子

翻訳者：郡山直、矢口以文、木村淳子、結城文
解説：若松丈太郎、矢口以文、鈴木比佐雄
発行所：株式会社コールサック社

公募：詩作品と同封の承諾書をお送り下さい。
(掲載の採否は日本語の初校をもって代えさせていただきます。
英文翻訳校正は日本語校正が確定した後で数ヶ月先になります。)

参加費(翻訳代含む)：
1頁(日本語縦組み40行×1行25文字、英文は横組み)で2万円4冊贈呈
2頁では参加料は4万円、8冊贈呈

2011年3月11日の東日本大震災を経た世界は、今まで隠蔽されていた原発の抱えている根本的な問題点を突きつけられた。世界の人々は地震津波によって破壊されて放射能が漏れ出した福島とその周辺の真実を知り、日本人が原発事故をどのように克服していくかを注視されている。脱原発に取り組み、いかに太陽光、風力、地熱、潮流・波浪、バイオマスなどの自然エネルギー発電を組み合わせる最適な電力環境を創造していくか。また電力使用を減らす自らのシンプルな生き方を目指し、再生可能なものしていくかが問われていると思われまふ。そのような意味で「福島第一原発事故」の経験とその教訓を詩作して、英文にも翻訳して世界に発信したいと願っております。編者の中では左記のような十ほどのテーマを現状では構想しておりますが、実際に集った作品にあわせてそれに相応しい章立てにしたいと考えております。どうかご参加くださることを心よりお願い申し上げます。

- 1 人類はどうして放射能被害をもたらす原爆と原発を造ったのか
- 2 広島・長崎原爆による被爆者達の放射能被害の実態
- 3 水爆実験による第五福竜丸乗組員の被曝被害とその隠蔽
- 4 科学技術礼賛による原発事故隠しの歴史的問題点
- 5 福島第一原発事故による放射能汚染の広がりの実相
- 6 全国の原発、世界の原発を廃炉にするための具体的道筋
- 7 ドイツ、スイス、イタリーなど脱原発を志す世界の詩人たち
- 8 脱原発による持続可能な自然エネルギー発電への構想力
(太陽光、風力、地力、潮流・波浪、バイオマスなど)
- 9 小型化・分散化・多様化による発電の最適化を目指す街造り
(スマートグリッドの活用、スマート・シティの構想)
- 10 福島を踏まえた百年後・千年後の未来人へのメッセージ



ホットニュース ③

☆広島県福山の詩の教室で大井詩集・田村詩集がテキストに！！

詩の教室 ポエムサロン・Rose ご案内

開催場所：ふくやま文学館(広島県福山市)
084(932)7010

開催時間：午後2時～4時

開催日と内容：

10月23日(日)・26日(水)
詩の添削 及び
大井康暢詩集『象さんのお耳』(コールサック社)を読む

11月24日(木)・27日(日)
詩の添削 及び
田村のり子詩集『時間の矢—夢百八夜』(コールサック社)を読む

受講料：1回1500円

お問い合わせ：
一瀉千里（いっしゃ・ちさと）氏
日本現代詩人会・日本詩人クラブ 会員
中四国詩人会 理事
084（951）1300 （FAX兼）



ホットニュース ④

詩誌「コールサック」70号 刊行！！

2011年8月31日刊 定価1000円（税込）

【目次】

【70号目次】

| | | |
|-------------|-----------|---------------------------------------|
| 扉詩 | 藤間公美 | 無題 |
| 詩 | 岡村直子 | おんな |
| | 崔龍源 | 闇と光のバラード |
| | 山本聖子 | 規制線 |
| | 中林経城 | 巡礼 |
| | 橋田活子 | とくに話があるというわけでもなく… |
| | 中村純 | やわらかな者たちへ |
| | 宇宿一成 | 見えない石 |
| | 奥主榮 | 船 |
| | 畑中暁来雄 | 国会議員は一人、万歳 |
| | 市川紀久子 | 五月の光のなかで／会いに行けません |
| | 平井達也 | 見合い／カレンダー |
| | 横田英子 | トマトの憂い |
| | くにさだきみ | 蜘蛛の闘い |
| | 武西良和 | 暗がりのオブジェ／外のオブジェ |
| | 浅山泰美 | 童謡 |
| | 名古屋よえ | 夏の旅 |
| | 郡山直 | 虎の新年の歌／外科医の独り言 |
| | 秋山泰則 | ／わしのメスはよく切れるぞ |
| | 山本倫子 | 未来を生きる君たちへ |
| | 磯山オサム | 波 |
| | 青柳晶子 | 飛ばない鳥となって |
| | 武藤ゆかり | 友へ |
| | 朝倉宏哉 | 朝日のように |
| 震災原発特集② | | けんか七夕太鼓／福島の子どもたちに |
| | 御庄博実 | 東日本大震災・福島原発破砕 |
| | 東梅洋子 | 詩十篇 |
| | 黒川純 | 詩五篇 |
| | 垂久津歩・矢口龍汰 | 合作 続・石巻ノンフィクション |
| ベトナム訪問特集 | | |
| | 鈴木比佐雄 | 蓮の花の国ベトナム・詩十二篇 |
| | 宮崎勇雄 | 八月のベトナムで |
| 札幌合同出版記念会特集 | | |
| | 斎藤彰吾 | 詩論集『真なるバルバロイの詩想』刊行記念朗読 |
| | 谷崎眞澄 | 詩文庫『谷崎眞澄詩選集一五〇篇』刊行記念朗読 |
| | 木村淳子 | 詩集『美しいもの』刊行記念朗読 |
| | 矢口以文 | 詩集『詩ではないかもしれないが、どうしても言っておきたいこと』刊行記念朗読 |
| 図形詩 | 堀内利美 | 詩集『いのちのにつき』を読んで |
| | 尾内達也 | メルトダウンするレムニスケート |
| 小詩集 | 岸田裕史 | 小詩集『メカニックコンピュータⅢ』九篇 |
| | 若宮明彦 | 小詩集『海』五篇 |
| | 荒木せい子 | 小詩集『清水』四篇 |
| | 植田文隆 | 小詩集『壊してやる』五篇 |
| | 未津さきみ | 小詩集『稲の花』五篇 |
| | やまもとれいこ | 小詩集『スライスされる記憶』四篇 |
| | 木村淳子 | 小詩集『あの朝に戻る道を』四篇 |
| | 佐相憲一 | 小詩集『波音』五篇 |
| 日英語詩 | 尾内達也 | 隠れた存在 A. Sに |
| 翻訳詩 | キム・テジョン | (訳・李美子) とねりこ |
| | | ／ブッカサン(北漢山) |

| | | |
|-------------|------------------------|----------------------------|
| | ロミー・リー (訳・尾内達也) | 近景 |
| | ヴァレリー・アフアナシエフ (訳・尾内達也) | |
| | ジュディ・ハーディン・チャング著 | 『瞑想の時』 (訳・結城文) |
| 詩人論 | 開かれたドアの芸術／瞬間に生きて | |
| | 新藤謙 | 生活の思想化・石垣りん |
| | 宮川達二 | 焔に立つ青馬・小熊秀雄 |
| | 森三紗 | 宮沢賢治 |
| | 奥主榮 | クーボー博士とブドリ「凶作に関する研究」と実践(一) |
| | 石村柳三 | 未踏の沃土(有馬敲論) 第一回 |
| | 若宮明彦 | 堀場清子の詩「悲愁無限」を読んで |
| 講演録 | 作家・中津攸子 | 「港」の詩人—佐相憲—小論— |
| | | 『三・一の大ショックで思うこと』 |
| | | —二人の戦争体験者が語る— |
| 小エッセイ集 | | |
| | 浅山泰美 | 孟蘭盆の頃／猫の往生／アルトライアーの響き |
| | | ／藪地島の島人 |
| 連載エッセイ | | |
| | 下村和子 | 日本の祭り(2) |
| 連載エッセイ(詩付き) | | |
| | 貝塚津音魚 | 里山の再生を夢見て② |
| エッセイ | | |
| | うおずみ千尋 | 盲目の日に 浦上川の橋に佇つ |
| | 名古屋よえ | 子ども(小学生)の詩から |
| | 山本倫子 | 通り抜け |
| | 川村慶子 | 七夕と外気療法 |
| | 亜久津歩 | 「生きる歓び」と詩についての雑考 |
| | 北畑正人 | 六十年代の遺産 |
| 追悼文 | | |
| 詩 | 下村和子 | 真面目な努力家 島田陽子さん |
| | 直原弘道 | 私の散歩 |
| | 平原比呂子 | 三回きりの電話 |
| | 野村俊 | 王の書齋 |
| | 清水マサ | 鳥よ |
| | 中村花木 | 峠の伝説 |
| | 鳥巢郁美 | 日暮れの帷 |
| | 水月りら | メルヘンのつづき／月の涙 236 |
| | 杉本知政 | 雪の朝 |
| | 木島章 | 余白／にわか |
| | 井上優 | ねこ／道程／ホワイトクリスマス・イヴに |
| | こまつかん | 龍杖／鳳凰杖 |
| | 皆木信昭 | 認知症 その11 |
| | 吉田博子 | もうひとりの母のような人 |
| | 酒井力 | 朝 |
| | 村永美和子 | 青の空 |
| | 豊福みどり | 毛虫 |
| | 山本泰生 | カオス、びんびん |
| | 関中子 | こころの孔 心孔 |
| | 町田理樹 | 白夜幻灯 |
| | 結城文 | エミリの巻毛 |
| | 田中作子 | さるすべり／アメリカ育ちの風味 |
| | 山岡和範 | 原発と原爆 |
| | 下村和子 | 海よ |
| | 石村柳三 | 沈黙の《石碑》に耳を傾けよう |
| 書評 | 荻野静男 | |
| | ベアト・ブレヒ | ビュール・著／鈴木俊・訳 |
| | 『アドルフ・ディートリッヒとの徒歩旅行』 | |
| | 清水マサ | 中林経城詩集『鉱脈の所在』 |
| | 山岡和範 | 中林経城詩集『鉱脈の所在』 |
| | 林堂一 | 田中作子詩集『吉野夕景』 |
| | 野仲美弥子 | 田中作子詩集『吉野夕景』 |
| | 都月次郎 | 岡村直子詩集『帰宅願望』 |
| | 斎藤彰吾 | 岡村直子詩集『帰宅願望』 |
| | 郡山直 | 星野明彦詩集『いのちのにつき』 |
| | 小島きみ子 | 星野明彦詩集『いのちのにつき』 |
| | 洲浜昌三 | 吉田博子詩画集『聖火を翳して』 |
| | 南邦和 | 吉田博子詩画集『聖火を翳して』 |
| | 石村柳三 | 尾崎寿一郎著『ランボー追跡』 |
| | おしだとしこ | 尾崎寿一郎著『ランボー追跡』 |
| | 水野浩子 | 名古屋よえエッセイ集『京都・お婆さんのいる風景』 |
| | 高橋玖未子 | 名古屋よえエッセイ集『京都・お婆さんのいる風景』 |
| | 鳥巢郁美 | 森徳治評論・文学集『戦後史の言語空間』 |
| | 高田千尋 | 森徳治評論・文学集『戦後史の言語空間』 |
| | 新藤謙 | 若松丈太郎『福島原発難民』 |
| | 石川逸子 | 若松丈太郎『福島原発難民』 |

北村愛子詩集『見知らぬ少女』

2011年7月8日刊行 定価2100円(税込)

水滴を 油がはじいているのか／ひきしまった 小麦色の／その皮膚の 背中いちめん
／水滴が 無数の玉になって／ころころと 玉になって／おちもせず キラキラと ひかっている

(詩「見知らぬ少女」より)

(解説 鈴木比佐雄)

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

新刊!

浅見洋子詩集『独りぼっちの人生(せいかつ)』

2011年7月23日刊行 定価2100円(税込)

— 私は 今でも 夕日が 嫌いです／語気を強め 言い切る 石川智恵子 六九歳
／東京大空襲訴訟で 証人尋問にたつ 彼女／打合せ場所を わが家にした 代理人の夫
／二人の 傍らで 茶を入れながら／彼女の話に 聞き入った

(詩「夕日」より)

(解説 鈴木比佐雄)

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

新刊!

片桐ユズル詩集『わたしたちが良い時をすごしていると』

2011年7月26日刊行 定価2100円(税込)

わたしたちはこの異星のうで出会い／会えないでいる一日を一年のように感じているが
／宇宙的にいえば それは一瞬だ／沈まないうちに次の一步をふみだし／水のうえを歩くように
／わたしたちは足跡を残さない

(詩「わたしたちは何も残さない」より)

(解説 鈴木比佐雄)

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

新刊!

牧葉りひろ詩集『黄色いマントの戦士たち』

2011年8月19日刊行 定価2100円(税込)

冬の陽に映える松島の沖の／牡蠣の「畑」を通り過ぎ／海岸線すれすれに／電車は／石巻へと向かう
／／駅に降り立つと／フランソワーズ・アルヌール／「003」が／曇りに満ちた美しい眼差しで迎える

(詩「黄色いマントの戦士たち」より)

(解説 鈴木比佐雄)

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

新刊!

大井康暢詩集『象さんの耳』

2011年8月26日刊行 定価2100円(税込)

象さんの耳はなぜ大きい それは遠いところから／神のお告げを待っているからだ／大きな耳 それは
水の音を聞き分けるためにある／水の音を聞き 水の危険を知っているのだ／地震や津波を仲間に知
らせるために

(帯文より)

(解説 鈴木比佐雄)

メールマガジン2011年10月号
詩集・エッセイ集・詩論集など出版のご相談も承ります。

ホームページやブログのリンク、大歓迎です。お声をかけてください。

今後も刊行図書のご案内やイベント情報など、皆様のお役にたつ情報をお届けさせていただきます。

どうぞよろしく願いいたします。

株式会社コールサック社（代表・鈴木比佐雄）
担当 佐相憲一
〒173-0004 東京都板橋区板橋2-63-4-509
TEL03-5944-3258 FAX03-5944-3238
E-mail: k.sasou@coal-sack.com
URL: <http://www.coal-sack.com/>

※配信停止ご希望の方は、お手数ですが、ご連絡をお願いいたします。